

秋の七草

秋の七草の由来

かの有名な奈良時代の歌人、山上憶良（660～733）が『万葉集』に詠んだ以下の2首が秋の七草の由来とされています。

秋の野に 咲きたる花を 指折り（およびをり） かき数ふれば 七種（ななくさ）の花

萩の花 尾花 葛花 瞿麦（なでしこ）の花 姫部志（をみなへし） また藤袴 朝貌の花

「朝貌の花」は、朝顔、木槿（ムクゲ）、桔梗、昼顔など諸説ありますが、桔梗とする説が最も有力です。尾花はススキ（花が尾に似ているため）です。

春の七草は食べて無病息災を願うのに対し、秋の七草は眺めて楽しむ草花というところでしょうか。



はぎ・萩



すすき・薄・芒



くず・葛



なでしこ・撫子・瞿麦



おみなえし・女郎花



ふじばかま・藤袴



ききょう・桔梗

写真は「ちょっと便利帳」より

ご参考までに 秋の七草の覚え方を書いておきます。

「お好きな服は？」 という語呂合わせで覚えると覚えやすいです。

お：女郎花（おみなえし）
す：薄（すすき）
き：桔梗（ききょう）
な：撫子（なでしこ）
ふ：藤袴（ふじばかま）
く：葛（くず）
は：萩（はぎ）